

平成27年度前期 全学教育科目
名大の歴史をたどる

第12回 名大祭のあゆみ

大学文書資料室 堀田慎一郎

1

◆第56回名大祭①

◇日時:2015年6月4日(木)~6月7日(日)

◇場所:名古屋大学東山キャンパス

◇テーマ:邂逅

2

◆第56回名大祭②

◇ブレ企画…仮装行列、ピンゴ・クイズ大会

◇当日企画(181企画) ※前回+12

音楽(29)、参加・体験(35)、学術(61)、
アート(4)、ショー(29)、その他(23)

◇名大祭本部実行委員会企画(13)、
名大祭一・二年生実行委員会企画(14)、
有志企画

3

◆第55回名大祭③

◇名大祭本部実行委員会企画(13企画)

…オープニング企画、当夜祭、土夜企画、後夜祭、
テーマ企画、講演会企画、盆踊り企画、古本市、
フリーマーケット、各種ゲーム企画、など

◇名大祭一・二年生実行委員会企画(14企画)

…仮装行列、SF(Sports Festival)企画、名大生白書、
縁日企画、お化け屋敷企画、お笑い企画、ステージ
企画、トレジャーハンター企画、など

4

◆名大祭の誕生①

◇名大祭以前の名大大学祭

◎名古屋帝国大学開学(記念)式(1943.5.1)

◎開学記念祭(~1956年)

◎大学祭(1957~59年)

※初夏開催の開始(1952年~)

※仮装行列、ファイヤーストーム

※名古屋大学主催

※テーマ設定なし

5

「今迄も、少しでもより素晴らしいものと毎年毎年
努力が繰り返えされて来ましたが、結果的にみて、
それはタコ足大学の名にふさわしいバラバラの行事
の羅列に終わっていた様です。そして、この行事の
一番の眼目たるお互いの交流と云う事は、市民の
皆さんとはおろか学生相互間でもほとんど成果を
あげ得なかった様です。」

(1957年大学祭プログラムあとがき)

6

◆名大祭の誕生②

◇第1回名大祭

日時:1960年6月3日(金)~6日(月)、

※2日前夜祭、6日体育祭

会場:東山キャンパス、鶴舞キャンパス

主催:名古屋大学(名大祭実行委員会主管)

◇各学部の文化祭・体育祭の統一

←各学部への東山集結の進展

7

◆名大祭の誕生③

「名大は俗に「タコの足大学」と言われているように、全学がまとまって一つのことをするのはとてもむづかしいことです。毎年、何かあるごとに、その地理的な不便と全学的な組織のない悲哀をつくづく感じます。しかし、今年こそ、それを突き破って、名古屋大学史上初のフェスティバルを六月三~六日の四日間、東山、鶴舞を主会場に催すことになりました。」

(名大祭実行委員長)

8

◆名大祭の誕生④

◇名大祭がめざしたもの

「私達学生は、「平和と民主主義、よりよき学生生活」を求めて、いわゆる学生運動をしています。名大祭もその一翼をになうものです。マス・コミのかたよった報道によって、一般に学生運動の政治面のみがクローズアップされがちですが、—そしてまた、ともすれば、私達自身が、これにひきづられがちですが、—平和と民主主義を守る闘いは、こうした場でこそ

9

◆名大祭の誕生⑤

学生の本領が発揮出来るものと自負しています、すなわち反動的な学問、たいはい的な文化、体育を打ち破り、科学的な学問を確立し、創造的な文化、体育を生み出してゆくことです。この意味でも、名大祭が、全学的にもてたことを心から喜びかつ誇りに思います。」

(名大祭実行委員長)

←「学生運動」のエネルギーの全学的結集
←60年安保闘争、伊勢湾台風

10

◆8ミリフィルムで見る第1回名大祭

◇撮影者=原田治彦氏(1963年経済学部卒)

◇第1回名大祭4日目、1960年6月6日(月)

◇時間=約8分(音声なし)

◎体育祭(鶴舞グラウンド)

◎フォークダンス(鶴舞グラウンド)

◎仮装行列(鶴舞グラウンド→)

◎後夜祭(東山キャンパス)※夜のため不鮮明

11

◆1960年代の名大祭①

◇テーマ

- ・文章調の長いテーマ+比較的短いサブテーマ
- ・「人民」「祖国」「民族」「連帯」「真理」
←マルクス主義+国家(民族)主義

◇時代背景

- ・60年安保闘争→学生運動の分裂→名大祭の危機
⇒ 学生の統一、民族(祖国)、同世代(市民)との連帯への着目
- ・大学紛争(60年代後半~)
⇒大学のあり方そのものを問う

12

◆1960年代の名大祭②

- ◇関連講演会、全学シンポジウム、全学フェスティバル、「民族の心と呼ぶもの」、若者の集い、子供大会、学部祭
- ◇前夜祭、後夜祭、仮装行列、フォークダンス、体育祭、ファイヤーストーム、うたごえ祭典
cf.模擬店…「ときどきママコ扱いされるボク」
(第8回パンフ)

13

◆1960年代の名大祭③

- ◇芦田総長のメッセージ(第12回パンフ)
「名大祭は読んで字が示すように、『おまつり』であります。人間は緊張の連続で生きられるものではありません。楽しみも織りこんだものであってほしいと思います。」
- ⇒学生運動との深い関係を前提に、国内外の政治・社会情勢を敏感に反応した、一定の緊張感を持った場(単純な「祭り」ではない)

14

◆1970年代の名大祭

- ◇テーマ
 - ・比較的短いテーマ+文章調の長いサブテーマ
 - ・「青春」、歌←「青春」ドラマ、フォークソングの全盛期
- ◇時代背景
 - ・大学紛争の沈静化→学生運動の縮小
 - ・高度経済成長の終えんと「受験戦争」
→体制への疑義、人間らしさ、生き方の模索、閉塞感の打破
- ◇娯楽色の強まり(1970年代後半～)
…模擬店・サークル企画増加、グリーンフェスティバル

15

◆1980年代の名大祭①

- ◇テーマ
 - ・短文・単語化(抽象化)とサブテーマの消滅
 - ・各年の共通性(共通ワード)、メッセージ性の希薄化(80年代後半～)
- ◇テーマ企画から「オムニバス企画」へ
=テーマによる統合から企画のオムニバスとしての名大祭へ
- ◇参加する名大生の減少、3.5休講の危機
→実行委員会の緊急提言(1988年)

16

◆1980年代の名大祭②

- ◇飯島総長のメッセージ(第28回パンフ)
「テーマがいたずらに名大祭の実態から遊離し、たんなる飾りとして終わらないためにも、私はあえて名大祭の実態を諸君に問いたい。…名大祭は、名古屋大学の祭りであり名古屋大学学生の祭典である。卑小と幼稚な自己陶醉をさらけ出して、それを祭りと錯覚して恥じないようなおろかさ、万々諸君のなかには存在しないと信じるが、くれぐれも名大祭を大切にしてくれたまえ。今年の名大祭に「脱」の精神がいかにつらぬかれ、いかに表現されるか、私は期待をもって見守る。名大祭に幸あれ。」

17

◆1990年代の名大祭①

- ◇テーマ
 - ・1980年代後半からの継続、大学生=未成熟という認識(90年代前半)
 - ・社会的な話題になった1997年のテーマ
「くさった学生。くさった教授。」
→98年、99年へも波及

18

◆1990年代の名大祭②

◇「お祭り企画」の増加

- 名大祭への参加学生の減少への危機意識
- 非日常非現実的空間としての名大祭像
→2000年代も継続

「単なるばか騒ぎの場というだけではない」が、
「祭は日常的の細かい規則などというものを忘れ、
楽しく非現実的な空間を創り出すことに意義がある。」
(第31回パンフ)

19

◆2000年以降の名大祭①

◇テーマ

- ◎ワンフレーズテーマの定着、非日常的用語(夢、幻)
- ◎短文型の復活傾向(2009年～)
- ◎「笑(顔)」路線?(2010年、2011年)
- ◎抽象化・非メッセージ化の進行、肯定的性格
- ◎テーマアピールの消滅(2002年、2012、2014年復活)
- ◎テーマキャラクターの登場(2002年～)

20

◆2000年以降の名大祭②

◇伝統企画の終えん・修正

- ◎「アマチュアバンドコンサート」(1982～2002)
- ◎「グリーン(ベルト)フェスティバル」(1977～2006)
- ◎スケート企画(1972～)が徹夜ではなくなる(2009～)
- ◎ファイヤーストームの消滅(2010～)
- ◎仮装行列が仮装企画に(2011)→2012年復活

21

◆2000年以降の名大祭③

◇エコロジーとバリアフリーへの取り組み

- ◎「名大祭ごみ非常事態宣言」(1999)
- ◎リサイクル(ごみ)ステーションの設置(2000～)
- ◎エコツアー(2000～2005)
- ◎バリアフリー対策の本格化(2005～)
 - 企画のバリアフリー化、バリアフリーマップ
 - 授乳・オムツ替えスペースの設置、ベビーカー預かり
 - 車いすの貸出し、車いすマップ
 - English map

22

◆2000年以降の名大祭④

◇地域社会との調和と交流

- ◎近隣住民からの苦情(騒音、路駐)
- ◎「地域社会との調和と交流」への取り組み(2003～)
- ◎「地域を巻き込む名大祭」(2006～)
ex. 盆踊り企画
 - 第1回盆おDoり～名大祭にこやあ!!～(2006)
 - 浴衣でおどらナイト!(2011)
 - 第8回盆踊り企画 踊ってBON☆BON(2013)

23

◆2000年以降の名大祭⑤

◇食中毒事件(第49回)

- ◎2008年6月7日(土)の午後、嘔吐・腹痛者が続出、救急車で病院へ搬送される(被害者77名)
- ◎7日の全企画即刻中止、8日も全企画中止
- ◎黄色ブドウ球菌による食中毒(←前日以前調理)
- ◎2009年の飲食模擬店全面禁止
- ◎2010年からの復活
←衛生管理体制の厳格化、店舗数の制限

24

◆2000年以降の名大祭⑥

「1960年に第一回が行われた名大祭も半世紀という長い歳月を経て様々に変化し、当初の理念は薄れ、イベント化が進んでいます。しかし、このように変化し続ける名大祭の過去49回どれ一つを取っても、名大祭が皆様に愛されてきた、という事実だけは変わりません。これは名大祭が誇りにするべき伝統だと思います。」

(名大祭本部実行委員会委員長、第50回パンフ)

25

◆2000年以降の名大祭⑦

「社会的背景と共に様変わりしてきた名大祭は、昨今ではイベント化が進んでいると叫ばれています。しかし、学生のエネルギーが結集する場としての学生自治の祭典という側面は、51年間変わらず守り続けた誇るべき伝統であると自負しています。」

(名大祭本部実行委員会委員長、第51回パンフ)

26